

みょうこうケアフォーラム通信

令和7年度 第1回 みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時: 令和7年10月2日(木)18時30分から20時00分
- 会 場: 新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者: 62名(介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等)
- 内 容: 『明日からの仕事に役立つ薬のこと～事例から各職種で学びを深める～』

- 情報提供 「妙高市の現状と最近の傾向」
- 取組報告 「服薬に関するありがちな困りごとや支援例」

講師: アライ調剤薬局 北村聡美 氏

- グループワーク

- ・ Aさんに対して、自分はどのような支援ができるか
- ・ 自分の事業所で困っていること・工夫していること
- ・ 他の職種との連携により、改善や解決できること

司会は実行委員
の宮下さん

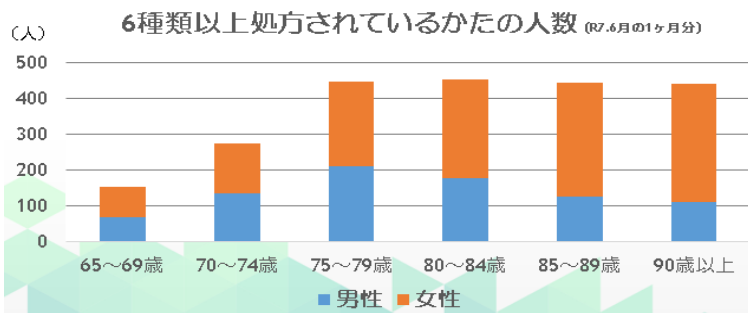


1 情報提供 「妙高市の現状と最近の傾向」

- ・ 高齢化率が年々増加
- ・ 独居高齢者・高齢者のみ世帯の増加
- ・ 高齢者の約16%が認知症・軽度認知障がい。
今後人数・割合ともに増加する予測

高齢になると、複数の持病を持つかたが多くなり、処方薬が多くなるかたが増える。
→ 処方どおりに、正しいタイミングや量、方法を守って、服用することがより重要になる。

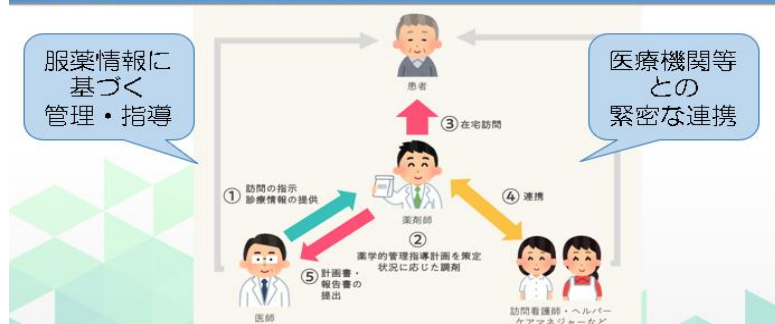
妙高市の現状 ④多剤投与者数(65歳以上)



服薬について、医療と介護の連携支援が大切

2 取組紹介 「服薬に関するありがちな困りごとと支援例」

居宅療養管理指導について



講師: アライ調剤薬局
北村聡美 氏



- 薬剤師は、薬全般の情報提供・サポートや市販薬や医療・衛生用品に関する相談、在宅療養における訪問サポートを行っている。
- 居宅療養管理指導において、医療機関や訪問看護師、ケアマネジャー、ヘルパーなどの関係者との連携の実践について、発表していただきました。
- 高齢のかたにありがちな困りごとに対し、工夫できることについて、ご紹介いただきました。

参加者の感想

- 薬剤師さんから訪問エピソード等を聞けてよかった。知らないサービス内容を知ることができた。
- 薬局との連携は敷居が高いと思っていたが、これからは積極的に活用していきたい。

3 グループワーク

【Aさん】

- ・80歳代、女性、1人暮らし。要介護1、認知症あり。
- ・認知症・血圧・便秘・腰痛の診断があり、それぞれ薬を処方されている。
- ・買い物と服薬確認でヘルパーを週1回利用中。
- ・その他、デイサービスを週1回、ショートステイを月1回利用中。
- ・昼前にヘルパーが訪問した際、すでにお昼に飲む薬がなくなっていた。
- ・デイサービスでは、配られた薬をポケットに入れてしまい、飲んでいないことがあった。
- ・月1回のショートステイでは、環境に慣れず、眠れないことがあったため、睡眠薬（頓服薬）を服用することがあったが、夜中にトイレに起きて、転倒したことがあった。また、ある日では、睡眠薬の影響か、朝起きられず、午前中の活動量が低下したこともあった。

事例をもとに、下記の3つのことについて、グループワークを行いました。

- ①Aさんに対して、自分はどのような支援ができるか
- ②自分の事業所で困っていること・工夫していること
- ③他の職種との連携により、改善や解決できること

① Aさんに対して、自分はどのような支援ができるか

【デイサービス・デイケア】送迎時服薬確認。飲み込み確認。薬が飲めていない様子あればSWに報告→CMへ情報提供。SS利用後はカラ薬袋も確認。薬が飲める様に嚥下訓練。そもそも支援の量が足りているのかCMに相談
【ヘルパー】薬袋に日付を書く。薬を預かって持っていく。カレンダーを作って薬をセット、カラ薬袋をカレンダーに戻す
【ショートステイ】眠くなるまで起きてもらう。職員と行動をとる。コールマット、トイレ等の環境整備。眠剤は0時まで服用。必要な薬の整理・形状の変更。安心感をあたえられるような声かけ
【その他(ケアマネ等)】服薬管理ロボットの導入。薬剤師の介入。服薬を1日1回にまとめる工夫。本人がどう思っているかを尋ねる・関係性を築く。大事な薬をいつ飲んでるかをアセスメント→支援を厚くする。家族や近所のかたからの声掛け。歩行状態の確認・歩行補助具・環境の助言。関係者間での情報の共有・日頃から医師と薬剤師と連携する。MCSなどの情報ツールの活用。薬の服用時間にアラームで知らせる

②自分の事業所で困っていること・工夫していること

【デイサービス・デイケア】本人と家族で服薬の食い違いがあると困る。内服変更あった時の情報提供がないことがある。誤薬が無いようにWチェック。服薬カレンダーでも管理が難しいかたに3日分の手作りカレンダーを作る・日付がわかる時計を置いておく
【ヘルパー】薬を捨ててしまうことがある。飲みたくない薬があり、飲まないときには医師に相談する
【ショートステイ】飲みこぼしがあるときは必要最低限の薬か再検討する。環境が変わる不安があるときは、話し声のあるフロアで過ごす、部屋の調整をする
【その他(ケアマネ等)】薬を飲む気がないかたは、説明しても理解してくれないことがあり、踏み込みすぎることできない。処方薬とサプリメントの飲み合わせが心配。退院後を考慮し、入院中から服薬カレンダーで管理する→退院後はヘルパーや家族にフォロー依頼。飲み忘れ・重複はよしとせず、必ず何かしらサービスを導入する。服薬カレンダーも日付や色で分かりやすくする。生活導線の目に入るところ薬を置き、飲み忘れを防ぐ

③他の職種との連携により、改善や解決できること

【デイサービス・デイケア】会話の中で気になることなどは、ケアマネなどに情報共有する。薬剤師にカンファレンスに参加してもらう。処方薬が変わったらMCS等ですぐ情報共有する
【ヘルパー】医師や訪問看護師、薬剤師と連携する
【ショートステイ】職員・家族・医者と相談し、眠剤の調整をする・薬を一包化する
【その他(ケアマネ等)】ケアマネと情報交換し、対象者の生活実態を把握する。インフォーマルなサービス等も検討する。複数の病院の薬を一包化して届ける。入院前情報・入院中の経過を受けて、看護師や薬剤師に服薬について意見を伺う。施設職員とコミュニケーションをとり、連携できるようにする。居宅療養管理指導の結果を関係者と情報共有する。カンファレンス・MCSを活用し、気付いたことなんでも関係者と共有する

5 まとめ



まとめは実行委員会の揚石先生

対象者に対して、専門職が言いすぎてしまうと、本人のためにならないので、気を付ける必要がある。今回の事例のかたは、一人暮らしで基本的に自立なため、今までみょうこうケアフォーラムで学んできた意思決定支援を意識することが大切。

今年度もみょうこうケアフォーラムは、年2回を予定しています。第2回の詳細は、後日改めてご案内します。